

## 本号のテーマ：「特別支援教育の視点から」

私は、小学校と特別支援学校に合わせて38年間勤務し、退職後は佐久市就学支援委員会専門員を4年間勤めました。教員の時は、「子どもから学ぶ」「子どもとともに育つ」ということを、専門員になってからは、就学相談の中で「子どもや親御さん、先生方の思いに寄り添う」ということを大切にしてきました。特別支援教育に関わったことは、自分の生涯の宝物です。教育委員になって1年が過ぎましたが、特別支援教育の視点が自分の基盤になっています。最近自分が願っていること、体験を通して感じたことを特別支援教育の視点から述べてみたいと思います。

### 1 児童生徒1人1台のパソコン配置にあたり願うこと

文部科学省の方針である「子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育むICT教育環境の実現」に向けて佐久市でも児童生徒1人1台のパソコンが配置されました。学校現場では、先生方がパソコンの効果的な使い方について研修を重ね、今までの教育実践に加え、授業の中で有効にパソコンが活用できるように取り組みを進めています。先生方や子どもたちがパソコンを授業の中で効果的に使えるようになるにはいくつもの乗り越えなければならない課題があると思いますが、先生方が先生同士で、また子どもたちと一緒にパソコンの活用について考え合い、できることから始めていって欲しいと願っています。

就学支援委員会専門員をしているとき、知的な発達に遅れはないけれど、読み書きに苦手さのある子どもたちが増えている現状を知りました。文章を自分で読み理解することが苦手だけれども、他の人に読んでもらえば理解ができるのです。読み書きの苦手さを克服する有効な手段として、デジ教科書の活用という方法があります。デジ教科書を活用するためにはパソコンが必要ですが、紙だけの教科書とは違い、パソコンで学ぶとパソコンが文章を読んでくれ、しかも今読んでいる箇所がわかるように色で示されます。実際にデジ教科書が使われている様子を見たことがあります。読み書きに苦手さがある子どもたちが安心して学べることを強く感じました。読み書きに苦手さなくても、文章の読解に自信のない子どもたちにとってもこのデジ教科書は学力を高める有効な手段になるのではないかと思います。授業中教室で一人だけ別の教科書、パソコンを使うことの難しさがありましたが、1人1台のパソコンの配置により解消されます。読み書きに苦手さのある子どもたちが個に応じた教育が今まで以上に受けられ



るようになります。1人1台のパソコンの配置により、子どもたちの学習意欲や探究心がさらに高まることを願っています。

## 2 聴覚に不自由さのある子どもたちへの支援について願うこと

今年の3月、東公民館主催の手話講座に参加しました。私は平成22年から2年間松本ろう学校に勤務したことがあります。先生方に教わったり松本市の手話教室に通ったりして少し手話を覚えました。あれから10年が経ちすっかり手話を忘れてしまいました。佐久市広報で手話講座があることを知り、手話を思い出し少しでもいいから覚えて身につけたいと思い参加しました。講師の先生は、小さい時の高熱が原因で聴覚に不自由さを抱えていましたが、持ち前の明るさでユーモアを交えながら手話を教えてくださいました。アシスタントとして参加した手話通訳士さんも丁寧にさわやかに先生の手話を伝えてくださったので、先生の伝えたいことがよくわかりました。日本ではある時期手話が禁止されたことがあります。先生は手話で思いを伝えることができなかつたことやうまく伝えられなくていじめを受けたりした辛い経験を話してくださいました。しかし、今では自由に手話を使うことができ、特に佐久市が他市町村に先駆けて、手話に対する理解の促進や手話の利用しやすい環境を整備するために平成30年4月1日佐久市手話言語条例を施行したことをとても喜んでいらっしゃいました。

聴覚に不自由さを感じさせない先生の明るさ、ユーモアのおかげで、手話講座はとても楽しかったです。3回の講座でしたが、参加者は毎回休むことなく熱心に手話を学んでいました。素晴らしい学び合いのある雰囲気でした。先生の明るくエネルギッシュな姿から、明るく素直で、前向きに生活する松本ろう学校で出会った子どもたちのことを思い出しました。手話講座に参加して特に心に残ったのが、少し恥ずかしそうにしながらも一生懸命手話を覚える3名の高校生の姿でした。学校の授業で聴覚に不自由さがある方から話を聞く機会があり、手話に興味を持ち参加したとのことでした。この講座の後も手話の活動をしているグループに参加し、ボランティア活動に取り組んで行くそうです。若者たちが手話に関心を持ち活動を始めていてくれることがとてもうれしかったです。



就学支援委員会専門員として勤務する中で、聴覚に不自由さがある5名の子どもたちと出会いました。松本ろう学校で学んだ経験を生かし、専門的な指導を受けるために東北信をエリアとする長野ろう学校の教育相談の先生との連携を深め、定期的に子どもたちの様子を見てアドバイスを受ける取り組みをしてきました。昨年度佐久市教育委員会が中心となり、佐久市だけでなく佐久圏域における聴覚に不自由さのある子どもたちの調査が行われました。約30名の子どもたちがいることがわかりました。中には長野ろう学校に在籍して専門的な指導を毎日受けている子どももいますが、佐久に聞こえの教室(難聴学級)ができれば今以上に専門的に指導が受けられ、救われる子どもたちがいます。現在長野県では、長野市、松本市、茅野市、塩尻市、伊那市、飯田市の小中学校に10の聞こえの教室(難聴学級)が設置されています。昨年度から佐久市教育委員会では、佐久圏域に聞こえの教室(難聴学級)の設置をめざして取り組みを始めました。まだまだ乗り越えなければいけない課題がたくさんありますが、佐久市教育委員会が佐久圏域の中心になって歩み始めたことをとてもうれしく思っています。聴覚に不自由さがある子どもたちが、更に専門的な指導を継続して日常的に受けられるようになることを願っています。